

(様式4)

都道府県名	山口県	番号	35
ふりがな 学校名	やないしりつひづみしようがっこう 柳井市立日積小学校		

1. 研究の概要

(1) 研究主題

よく考え、しっかり表現できる日積っ子の育成
～ 対話力の向上をめざして ～

(2) 研究主題設定の理由

小規模校の本校児童は、やがて大規模校の中学校へと進学し、他校の進学生とよりよい人間関係を築いていく必要に迫られている。そのためには、「話す、聞く力」をもとに、表現力を系統的に培い、人間関係を積極的に築いていく力を育むことが必須だと考える。

そこで、自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、表現する力を育成すること、また、子ども一人ひとりが大切にされ、友達同士のよさを互いに認め合い、心の交流を図り、楽しく学び合うことができる態度を育成すること、つまりは「対話力」を育てることが大切であると考え、本主題を設定した。

(3) 具体的な実施内容

- ① 「対話力」が発揮できるような教材、授業展開、手だてについて
- ② 児童自らが学習を振り返ることができるような場づくりについて
- ③ 他教科や総合的な学習の時間などを生かした多様な表現活動の工夫について
- ④ 学校の取組を保護者や地域に発信し、連携して児童の育成を図ることについて

(4) 対話力の向上をめざして

<指導のポイント>

- ① 受容的な環境の形成（友だちを尊重し、個性を認め合う人間関係）
- ② 聞き手の育成（相手の発言を引き出す聞き方）
- ③ 話しことばの基礎基本の徹底（発音、姿勢、口形、めあてをもった音読練習、改まって話す場の設定）
- ④ 「対話」になる活動の見極め（話題が多様な考えを導くもの、同じ事柄を客観的にみるようなもの、感想交流）

2. 成果

- (1) 朝のスピーチはもちろんのこと、授業においても「相手の話を聞いて、自分も話す」「相手の話す内容と自分の考えていることの共通点や相違点を意識しながら話す」という対話の価値を児童が実感するようになった。
- (2) 「聞いては話し、話し手は聞き、聴いては訊く」などの活動を実現することで、書く力も伸びてきた。
- (3) 他教科や総合的な学習にも発展させていったことで、コミュニケーションをとって、人間関係を構築していこうとする気持ちが生まれた。

3. 成果についての検証

(1) 話しことばの基礎基本の徹底

「話す・聞くスキル」の本を使用し、朝学で音読に取り組む日を位置づけた。また、音読カードを持たせて、姿勢・口形・正確さ・速さ・間の取り方などを自己評価させた上で、家庭に持ち帰らせ、評価してもらうようにした。

(2) 「対話」になる活動の見極め

小規模校のため、異学年あるいは他校の児童との交流学习を充実させることで、全員が自分の思いを伝える機会が増えた。また、総合的な学習の時間などを通じて、地域の方との出会いがあり、その場に応じた話し方を学び、少しずつではあるが生きた場で活用できる対話力が身についてきた。

(3) 教師の意識の変容

前年度からの積み重ねの資料をもとに、創意工夫をしながら指導をすすめてきた。校内授業研究会や拡大授業研究会において、講師だけでなく、他校の教員からも多くの学びを得るとともに、学年の実態や単元のねらいにそった新しい授業づくり（交流することによって学習効果が望めるもの見極め）を積極的に行った。

4. 課題とその改善

(1) 実践研究を通じての課題

本校児童は、保育園から小学校卒業まで、メンバー構成にほとんど変動がないため、相互尊重の姿勢は備わっているものの、自分らしさを発揮する表現力はまだ十分とはいえない。

これからの社会に主体的に対応できるように、目的や意図に応じて、適切に表現する（話す）力と、相手の立場や考えを的確に理解する（聞く・聴く・訊く）力、さらには、他人を思いやる優しさ、相手の立場になって考えたり、共感したりすることができる温かい心を育てていくこと、そして、困難な状況の中においても、道を切り拓いていく創造力を育てていくこと、つまり「対話によって、未来を切り拓いていく力」をさらに育てていくことが課題である。

(2) 今後の対応

① 「対話力」が発揮できるような教材、授業展開、手だてを工夫する。

② 授業で学んだ対話力が活用できるように、異学年や他校の児童との交流学习、地域の人との出会いの機会をさらに充実させる。

③ 「一日一感動」など、自分の心を見つめ直し、相手の優しさに気づく（感じる心）ような取組を工夫する。